

来日するネパール人について

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

宗教を通してみると日本とネパールの関係は古く仏教の崇高以来となります。ネパールのルンビニ郡に生まれた釈迦の教えは中国を経由し 7 世紀頃日本に伝わったと言われます。実際に人々の行き来は 1899 年になってからで、河口慧海（当時 34 才）という僧侶で探検家が初めてです。僧侶は梵語で書かれた仏教経典を学びにネパールを訪れたのです。

僧侶はネパールで暫く滞在し、北部に聳えるダウラギリ・ヒマラヤ山脈の峠を越えてチベットに入り込みました。チベットの滞在は、現地人に成りすまし暮らしていました。しかし 2 年後、国籍がばれてしまい、不法滞在を知ったチベットより国から追放されました。しかし僧侶は住み易いネパールをその後も 3 度程訪れていました。

日本にネパールから初めて訪れたのは 8 人の学生でした。彼らは東大などに留学するため 1905 年に来日したのです。なお、日本・ネパール外交関係樹立は 1956 年です。それぞれの国に領事館ができてからは多くの政治家、閣僚そして民間の交流が深まりました。今日は両国の間の直行便もでき、人々の行き来は年々増加傾向にあります。現在、短期滞在の観光客以外に、ネパール在住の日本人はコロナの関係で以前より少なく 1,000 名余りで、日本在住のネパール人は 9 万人を超えています。

ネパール人が日本に増えている理由は様々ですが、料理のシェフとして来日しているのが一番多いと思われます。最近、インド/ネパール料理店は、関東や関西のような大都会にのみならず、小さい街

にもよく見受けられます。これらの店の経営者はネパール人が多いです。カレー好きな方なら一二度はこうした店に入ったことあるのではないかと思います。

インドとネパールは隣国です。民族、文化や宗教などよく似ています。どちらも主食はカレーが多く、カレー料理の作り方も殆ど同じで、沢山のスパイスを使います。自分が入ったレストランの経営者はネパール人かどうかを直ぐ見分ける方法があります。ネパール人なら、

- ① 接客する従業員は大体ネパール帽を被って笑顔で優しく歓迎します。
- ② レストランのホールにはネパール産の品物が飾られています。
- ③ 室内壁にネパールのポスターが貼られています。
- ④ 店には、ネパール直輸入の酒があり、特にエベレストビールやムスタンビールを飲めます。
- ⑤ ネパールの代表的な餃子‘モモ’が食べられます。

近年、長期滞在するネパール人が増えています。入管法で、留学生に対しても卒業後、自分の専門分野を活かし、国内で働けるように緩和されています。そのため、看護学校を卒業した学生は介護や看護関係に、IT 学関係を卒業した学生は IT 企業などに、ホテルマネジメントや経営学を卒業した学生はレストラン経営などに従事しています。

なお、経営に従事する者は自分の家族や従業員を日本に呼び寄せることが出来、さらに従業員の家族も呼び寄せること出来るので、最近年々ネパール人が増えた理由は、この先も流行すると思われる。

里子のクローズアップレポート

LET'S KNOW ABOUT OUR CHILD NO.: 328

氏名: クスマティ・パリヤル
 住所: ロルパ郡
 生年月日: 2063-10-04 (西暦 2007年1月18日)
 学生No: 2018-01-1045
 学校名: スリー・ジャナ・セワ高等学校
 父: 故ジョキ・パリヤル
 母: ジャマサリ・パリヤル



クスマティ・パリヤルは、1年生の2018年からミランクラブジャパン/ネパールの里子になりました。現在は14歳で、ロルパのスリー・ジャナ・セワ高等学校で5年生として学んでいます。

彼女は母親が大好きです。将来、看護師になることを目標にしています。彼女の趣味は本を読むことです。

現在、彼女は母と住んでいます。家族は母親と彼女だけです。父親の死後、彼女たちは経済的危機に苦しんでいました。彼女の母親の職業は地元の農家でアルバイトをすることです。

ミランクラブから奨学金を得られてとても幸せです。ミランクラブジャパン/ネパールのメンバーの皆様に感謝しています。

彼女の家族には、生活に十分な収入を得られる人が一人もいません。彼女たちの経済状態は非常に悪いです。ミランクラブの奨学金がなければ、貧しさのため、学校教育を受けることを考えることができません。彼女は少なくとも高校を卒業したいと考えています。将来、自分の村のため役に立てる人間になりたいと思っています。彼女が勉強を継続するためには奨学金が必要不可欠です。彼女は勤勉でとても頑張り屋の学生です。

ミランクラブネパールコーディネーター

ラミタ・マハルジャン

翻訳 ミランクラブ会員

里子のクローズアップレポート

LET'S KNOW ABOUT OUR CHILD NO.: 329

氏名： マニシャ・ブッダ・マガール
 住所： ロルパ郡
 生年月日： 2066-03-31（西暦 2009年7月15日）
 学生No： 2018-01-1044
 学校名： スリー・ジャナ・セワ高等学校
 父： 故プレム・バハドゥール・ブッダ・マガル
 母： オーム・クマリ・ブッダ・マガル



マニシャ・ブッダ・マガールは、1年生の2018年からミランクラブジャパン/ネパールが受け入れたた里子です。現在は11歳で、ロルパのスリー・ジャナ・セワ高等学校の5年生で学んでいます。

彼女は将来教師になることが夢です。勉強をするのが趣味です。

彼女の家族は4人です。母親、兄、姉と彼女自身です。父親の死後、彼女は母親と一緒に住んでいます。母親は農家の手伝いをしています。家族の日常生活は母の農業のアルバイト収入に依存しています。

彼女が勉強を続けられているのはミランクラブジャパン/ネパールの奨学金があるからです。彼女は学校の勉強が出来てうれしく思っています。彼女はミランクラブ日本/ネパールの皆様に対して心から感謝しています。

彼女の家族には、母の収入となるもの以外に他はありません。農業の手伝いの収入だけで家族一家の生活には十分ではありません。祖父母が経済面で少し助けてくれています。彼女の生活は悪すぎます。将来、彼女は教師になり、自分と同じ立場にいる村人たちのことを助けたいと思っています。ミランクラブの支援は今後とも、彼女の勉強を続けるため、そして夢を叶えるために必要です。

ミランクラブネパールコーディネーター

ラミタ・マハルジャン

翻訳 ミランクラブ会員

ネパールから里子たちの便り

私の学生生活

学生の生活は、人生で最も幸せな時期です。学生時代は厳しい世界のすべての不安から解放された人生だと思います。勉強中の心境は崇高な考えに満ちており、将来の考えは夢に満ちています。私たちは、今の自分の勉強は来るべき人生を乗り越えていくための準備期間だと思っています。学生生活を適切に活用すれば、その成功と成果の基盤が築かれると信じています。確実な人生を送るには、毎日学校へ行き先生のことをよく聞き、一生懸命に頑張りたいと思います

学生生活に影響を与える最も重要な要因は、時間の価値です。学生として、私たちは誰も待たないので、時間通りにすべてを行うべきです。私たちの人生にはさまざまな段階があります。

名前:アイシュナ・マハルジャン
クラス: 10
学校:アンナプルナ高等学校



ミランクラブの皆様へ

ナマステ

私は、学校の勉強の教材を購入するために奨学金の機会を与えてくれたミランクラブの会員の皆様に感謝の意を表したいと思います。

私は、6年生からミランクラブの奨学金をもらっている里子です。初めて入奨学金受けられるようになった時は1ヶ月 Rs. 500 でした。現在は月額 Rs. 500 から Rs. 800 に増えました。この奨学金は、コピー、鉛筆、書籍などを購入するのに大変役立っています。

最後に、私や私と同じ立場にいる他の学生のために勉強の機会を与えてくれて日本のすべてのメンバーと、ミランクラブネパールに感謝いたします。奨学金の情報や申請のため助けてくれた方々にも感謝します。

ありがとうございます。

リヤ・マナダール
エベレスト高校

